

南画・水墨画の世界

# 蜂須秀雲展

（あいさつ）

本市は、日本画・洋画など多くの画家とゆかりがあります。特に南画・文人画の大家である奥原晴湖や、洋画・日本画で全国的に有名な森田恒友などは、本市にゆかりのある画家の中でも特筆すべき画家であるといえるでしょう。

このような著名な画家たちの影響も受けながら、本市は多くの日本画家・洋画家を輩出しておりますが、今回展では、西別府出身で、郷土の水墨画の先駆的な役割を果たした、蜂須秀雲の作品を展観いたします。

秀雲は、明治一〇年四月四日に蜂須米吉の三男として生まれ、本名を近三といいました。父親の米吉は羽子板、破魔弓などの製造を手広く営み、また永井太田の画家、萩原春山の弟子として絵も描き、鳳州と号しました。

秀雲は、父親や長兄（号を鳳嗣）などの影響もあり、幼少より絵を好み、東方村（現深谷市）の画家である江森天淵について南画を学び、秋湖と号しました。その後画家を志して足利市の田崎草雲の画風を学び、号を秋雲と改めました。

そして父米吉が没した明治四三年に上京、本郷根津八重垣町（現東京都文京区根津二丁目）に居住して、小室翠雲の塾頭などもつとめ、後年には池上秀敏に師事して花鳥画を学び、号も秀雲と改め、文展、日展をはじめ諸展に入選を重ねました。

しかし、画業の円熟期に入って期待も高まり、これからという時に、多くの愛好者たちに惜しまれながら、昭和六年八月一六日に五四歳で没しました。

今回展では、秀雲の山水画、花鳥画について、当館所蔵品を展示いたします。これらの作品をとおして、蜂須秀雲の芸術と人柄について認識を深めていただき、さらに郷土熊谷が生んだ芸術・文化に対しても関心を深めていただければ幸いです。

会期 平成二八年一二月二〇日（火）

〜平成二九年三月五日（日）

〔休館日 毎週月曜日（祝日を除く）、12/28、1/4、1/6、1/10、2/3、2/21、2/28、3/3〕

会場 熊谷市立熊谷図書館 三階 郷土資料展示室  
時間 午前九時〜午後五時



山水霧湧図





春溪閑歩



雪江帰漁図



双雁図

【画系略図】

- 谷文晁
- 春木南湖 — 春木南溟 — 金井烏洲
  - 渡辺崋山 — 椿椿山
  - 田崎草雲 — 小室翠雲 — 蜂須秀雲



獨座大雄峰図